

## 第17回（平成29年度）ざまひまわり写真コンテスト全体講評

今年の「ざまひまわり写真コンテスト」は、皆様のご支援のお蔭をもちまして17回を迎えることができました。今回は応募点数が356点、応募者が146人で、前回と比較しかなりの減少となりました。ひまわりまつりは栗原地区と座間地区で開催されていますが、今年は座間地区での開催期間中、あいにく天候に恵まれなかった事が応募数の減少に結びついたものと思われまます。しかしながら作品の質は高く例年と比較し決して劣るものではありませんでした。

次に、応募作品の傾向についてご説明いたしますと、ひまわり畑を駆ける姉弟の楽しい様子、実景をボカシレンズに写ったひまわりを誇張、咲き誇るひまわりの中のウェルカムゲートを的確に、額縁に収まる可愛い女子の嬉しそうな様子、モンシロチョウとひまわりのコラボレーション、さらに沢山の観光客の方がひまわり畑を満喫している様子を撮ったものなどさまざまなジャンルの作品をご応募いただき、皆様の豊かな感性に感心させられました。主催者及び各賞の提供団体からも、充実したコンテストが開催されたいへん喜ばしいことと伺っており、また応募された方の年齢も10歳代から80歳代の方までと大変幅広い年齢層にご指示いただき心強く感じています。

入賞作品につきましては、全応募作品の中から18作品を選出し、その中の8作品に賞の名称を付し、他の10本を入選としました。8賞を獲得された方の作品にはそれぞれに寸評を記しておきましたのでどうぞご覧ください。例年のおり惜しくも入賞（全18作品）を逃した方の中にも良い作品が多数ありました。特に同じ対象を撮影した作品を複数の方からご応募いただいた場合、また入賞数を18作品に絞らなければならないという審査基準の中で、残念ながら含めることができなかった作品が多くありました。この点は審査に携わる者として大変心を痛めると同時に皆様には次回のご健闘をご祈念申し上げます。

作品は年々レベルアップしており、応募くださる写真愛好家の質の高さを感じておりますが、コンテストも17回と数を重ねてまいりますと、これまでにたくさんの作品が応募され、作品制作に迷いの生じる時期かと思われまます。しかしながら、ご自分の感性で独自の表現力を発揮していただくことを次回作品制作の一助としていただきたいと思います。

また次回も、多くの皆様にご参加いただきますよう心よりお待ち申し上げ、この度の「ざまひまわり写真コンテスト」審査員の全体講評とさせていただきます。皆様とは、またこの会場でお会いできることを期待いたしております。

平成29年10月吉日

写真家 高橋ぎいち